

◎組合訪問記「JAM・池袋珙瑯(ほうろう)工業労働組合」

チームワーク大切に、 組合員の橋渡し役に徹する

Q1 まず池袋珙瑯工業労働組合の成り立ちと組合員数、役員体制などについてお聞きしたいと思います。

組合員は現在68名でうち女性が3名。JAM北関東に属しています。最盛期は45年くらい前でその頃は組合員も300名くらいいたようです。現在の年齢構成は、30代、40代が多く、団塊の世代の引退による問題は4〜5年前にクリアして、他の会社と比べると早めに若い社員に交代しています。製造現場では、まだ60代の熟練工が再雇用社員として残ってもらい、若手への技術指導なども含めて作業を行っています。

ただ年齢構成で問題なのは、20代の若者が少ないことです。最近では、新卒の採用はなく、社会経験のある人、あるいは技能を所有する人を中途採用する例が多くなっています。

組合役員は、執行委員長、副委員長、書記長の三役と一般の執行委員2名の計5名の執行委員から成っています。執行委員は全員が非専従

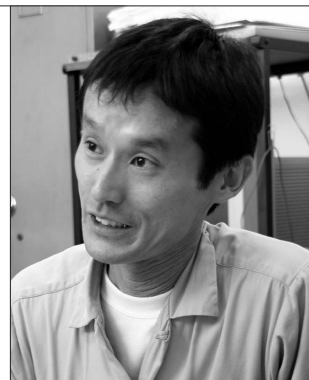
08年2月ボーリング大会
(会社共催)を終えての懇親会



で、自分の仕事を持ちながら、昼休みや終業後に組合活動を行っています。私を含めて全員が昨年9月に執行委員になったばかりです。私自身前に会計を計4年間担当しました。執行委員は各職場から1名ずつ選挙で選ぶ形を取っています。立候補もできるようになっていますが、残念ながら立候補する人はいないのが現状です。非専従で自分の仕事を持っていますので、外出さえしなければ毎日、この組合事務所に出して、業務の打合せ、資料整理などを行ったりしています。

Q2 池袋珙瑯工業労働組合の伝統の中で、大切にされているものは何ですか。

組合員数が少なくなっているので、人間関係、チームワークを大切にしています。組合役員の任期は2年間ですが、長い人は前任の委員長のように、執行委員からトータルすると、10年近く組合役員をやるケースもあります。大抵は1〜2期(2〜4年)で交代しています。そのため、会社の役員や組合員の中にも、組合



●執行委員長
河島 崇
かわしま・たかし

1970年千葉県生まれ。95年千葉工業大学大学院博士前期課程修了後、池袋珙瑯工業株式会社入社(技術部研究開発室配属、現在に至る)。池袋珙瑯工業労働組合の書記、会計を務め、07年同労組執行委員長(現在)、JAM北関東埼玉西部地協会計監査(現在)。

役員経験者がたくさん、いらっしやいます。組合役員を経験されている人は組合活動に理解がありますので、春季生活闘争や会社側への要求についても、進めやすい状況にあります。執行委員長になったときは、団体交渉などをきちんとできるかとても不安でしたが、いろいろな先輩に励まされて何とか成果をあげることができました。職場を回っていても、組合員を含めてあちこちに組合役員経験者がいて、声をかけてくれますのでやりやすい雰囲気になっています。この伝統は続けていきたいですね。

Q3 池袋珙瑯工業労働組合の主な活動の特徴について説明ください。

月に1回、執行委員会を開き、いろいろな職場の課題について対策を話し合ったり、組合行事の進め方などを検討したりしています。春闘の要求案づくりのときなどは、月1回だけでなく、もっと頻繁に執行委員会を開いて、要求案づくりを精を出しています。一方、組合員間のコミュニケーションを深めるために、組合発足

JAM・池袋瑠瑠工業労働組合



組合事務所で丸山書記長（中央）と打合せする河島委員長（右側）

時より文体レクリエーション活動を活発に行っています。年に4回程度、スポーツなどのイベントを組合員の家族も交えて開催しています。会社との共催でボリング大会、ソフトボール大会、ソフトボール大会は近くの小学校のグラウンドを借りて開催しています。さらに組合主催で納涼祭、潮干狩り、イチゴ狩り、山登りなどを行っています。組合新聞『いしずえ』によると、40年くらい前は組合員が多くなりましたので、ソフトボール大会なども優勝するまでにトーナメントで4試合は勝たないと優勝できなかったそうです。近年では、趣味なども多様化してきているので、参加者が少なくなっているのが現状です。

ボランティア活動としては、JAM北関東埼玉県連や連合埼玉の行っているクリーンキャンペーンなどに参加しています。平日は仕事があ

って参加することは難しいので、休日を中心にできるだけ参加するようにしています。

組合が結成されてから、45年たちますが、仕事の特徴がチームワークを大切に、協力・団結して行う部分が多いので、伝統的にチームワークを大切にしています。

Q4 現在、組合活動の中で、特に力を入れていることや会社側に要望していることはありますか。

今回の2008年春闘で

は、私を含めて執行委員全員が初めての春闘で、組合員の要望も取り入れ、会社側と交渉し12年ぶりに時短を1日勝ち取ることができました。さらに原油高騰の折、規定発行後初めてのマイカー通勤手当の増額、出張旅費手当の増額も実現することができました。今回の春闘では、会社側に7項目の要求をして、そのうち、3項目で成果を上げることができました。新しい執行委員のメンバーで、怖いモノ知らずで、真っ正面から組合員の要望をぶつけましたが、それに会社側も誠意をもって回答して頂きました。

会社は、1968年に日本ガイシと業務提携を行っており、日本ガイシのグループ企業の一員となっています。組合の方でも、年2回春と秋にグループ労組懇話会を開いて、研修会、懇親会、工場見学を行っています。昨春秋は当労組が会場となりました。グループ労組9組合との連携をとりながら、グループ企業の経営状況なども把握しつつ、組合員の意見・要望を実現するべくグループ労組内でも力を発揮していきたいと考えています。

Q5 職場の組合員からの要望などは最近どういうことが多いですか？

職場の組合員からは、個人的なこと、職場のこと、組合のこと、不定期にいろいろな要望が寄せられます。最近の特徴としては、年齢別に要望の中身が違うことです。30代から40代にかけては、賃金についての要望が多いです。これは、ちょうど育児や住宅ローンなどでお金が一番必要な時だからだと思います。50代後半の組合員からは退職金のことや老後の生活への要望が多いです。

また、安全衛生の問題にも会社と力を入れて

います。健康的で安全、快適な職場環境の実現をめざして、会社側との間で安全衛生委員会を設置し、安全衛生面の向上にも取り組んでいきます。

Q6 現在力を入れている活動は何ですか？

前執行委員からの継続になりますが、若手組合員の教育に力を入れています。組合員の要望やニーズもだんだんと多様化している中で、比較的若手の組合員22名を集めて昨年7月に中央うきん所沢支店をお借りして労組研修会を実施しました。研修内容として、退職金制度や給与明細の見方、政治活動、組合活動全般について勉強会をひらきました。また、研修後は懇親会を開き、若手組合員と親睦を深めました。中核を担う若手組合員教育を今後も継続していきたいと思っています。

Q7 最後に労働組合の活動を進める上で、ご自身のモットー、心がけていることがあれば教えてください。あなたにとって、労働組合とは何ですか？労働組合の役割とは何だと考えますか？

私自身、開発と製造技術の両方の仕事をしている関係で、開発部門の人たちだけでなく製造現場の人たちとも日常的に深く接しています。また、お客様への出張の際、営業やメンテナンスで全国各地の営業所に向向している人たちとも接することが多いです。いろいろな職場で働く組合員の人たちの間の橋渡し役に徹して、組合員の声をいろいろな面で吸い上げて会社側に要望していきたいと思っています。これからも執行部と力を合わせて一生懸命がんばっていききたいと思います。

（文書編集 金属労協組織総務局）